

金剛禅総本山少林寺水戸葵道院

二〇二四年 新春法会 門信徒代表挨拶

新年おめでとうございます。

僭越ではございますが、門信徒を代表してご挨拶を申し上げます。

世界を恐怖に陥れた新型コロナウイルスも落ち着きを見せ始め、季節性感染症と同じ五類へと変更され、マスクの着用も個々の判断によるものとなりました。替わって、インフルエンザや咽頭結膜熱の流行が始まり油断できない状況が続いております。

世界に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻は終わりが見えず、イスラエルでも戦渦が広がり始めています。

転じて国内では、芸能界の一大スキャンダル、旧統一教会への解散命令請求、多数の政治家による裏金問題、そして、元日に発生した能登半島地震では多くの方が被災され苦しみを強いられる中、デマ情報の拡散、詐欺行為や窃盗、新興宗教の勧誘等があったと聞き憤りを覚えました。心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い救助、復興をお祈りいたします。

そこで思い出されるのが、金剛禅の原点である「人、人、人、すべては人の質にある」という開祖の言葉です。金剛禅は、釈尊の正しい教えと達磨の行法を基盤とした人づくりによる社会変革が目的であり、自他共に真の幸福を追求する幸福運動でもあります。

開祖がなぜ金剛禅を創始されたのかを肝に銘じ、日々の修練の中で、私たちは何を求め、どこへ向かうのかを考えて行動しなければなりません。一人一人の力は小さくとも、慈悲心と勇氣と正義感の強い人間づくりを通して協力しあうことで平和な世の中をつくることができると信じております。

今年も鈴木道院長、関谷・近藤参与道院長のご指導のもと、理想境実現のため修練に励みますのでよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今年も皆様方のご多幸とご活躍を祈念いたしまして、門信徒代表挨拶とさせていただきます。

二〇二四年一月九日

金剛禅総本山少林寺水戸葵道院

門信徒代表 少導師少拳士 式段 小野瀬勝久